

平成29年度
中学校 ①

全国学力・学習状況調査 授業展開例【ひだかプラン】

国語 A 7 学校図書館で先生に相談する 設問一

森さんは、国語の授業で本を紹介するために学校図書館で先生に相談しています。次は、森さんと先生との会話です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

森 国語の授業で、「青春」というテーマで本を紹介することにしました。自分でも探しているのですが、なかなかこれという本が見つかりません。何かよい本はありますか。

先生 森さんは、どのような本を取り上げたいとおっしゃっていますか。

森 私は、何かに打ち込みながら成長していく人が出てくる本を二冊紹介したいと考えています。一冊はサツカに打ち込む中学生を主人公とした小説を選びました。もう一冊は大人以外を取り上げたいと思っています。

先生 もう一冊の本もスポーツに関する本にしようか。

森 それならば、野球に打ち込む中学生を主人公とした小説があります。

先生 いえ、そうではないのです。一冊は小説を取り上げたので、もう一冊は違うものにした方がいいです。そういったのは、実際にあった出来事を書いた本はどうですか。

森 それは思い付きませんでした。具体的にどのようなものがありますか。

先生 音楽に打ち込む人を取り上げた本や、演劇に打ち込む人を取り上げた本などがあります。音楽や演劇の冊子を見てみるよ。③

森 ありがとうございます。最初に音楽の冊子を見たいです。ありがとうございます。

森さんの――線部①の発言のすぐあとに、先生から線部②の発言を引き出すためには、森さんは――線部①でどのような発言をするとよいですか。次の□に当てはまる言葉を十字以内で書きなさい。

もう一冊は

を取り上げたいと思っています。

1 出題の趣旨

相手に分かりやすいように語句を選択して話すことができるかどうかをみる。

国語科の授業の中で紹介する本を選ぶために、学校図書館で先生に相談する場面を設定しています。先生から必要な情報をもらうために、誤解を与える表現を言い換えることを求めています。

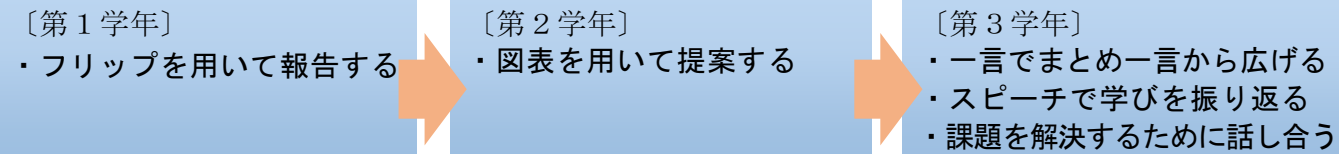
2 学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第1学年〕 A 話すこと・聞くこと
イ 日常生活の中的话题について対話や討論などを行うこと。

3 学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 A 話すこと・聞くこと
ウ 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。《話すこと》

【出題と関連する「話すこと・聞くこと」の教科書教材（教育出版）】



調査問題は、調査対象学年の下学年の学習内容からも出題されています。

出題の趣旨を踏まえ、全ての学年で、教科書の教材分析を行い、授業改善に取り組んでみましょう。



4 授業展開例：第1学年 日常生活の中的话题について報告する展開例

- 単元名 「体験入部」の報告をしよう～聞き手の反応に注意して分かりやすく話す～
- 単元の目標 自分の体験を基に報告する内容を選んで話を構成し、話す速度や音量、相手に分かりやすい語句の選択などの知識を生かして話すことができる。
- 単元の評価規準
 - 聞き手にとって分かりやすい報告にするために、話し方や話す言葉に注意して話したり、聞いたりしようとしている。【国語への関心・意欲・態度】
 - 話をする場や聞き手の立場に応じて、分かりやすい言葉を選び、適切な速度や音量で話したり、他の人の話し方の良さに注意して聞き取ったりしている。【話す・聞く能力】
 - 話をする上で必要な音声の働きや仕組みについて関心を持ち、理解している。【言語についての知識・理解・技能】

- 題材 体験入部の報告
- 単元の指導計画

| | 主な学習活動 | 指導上の留意点 |
|---------|---|---|
| | 単元の学習課題：「体験入部」の報告をしよう。 | |
| 第一時 | <ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しをもつ。 体験入部で活動したことや分かったことの中から伝えたいことを選び、報告メモをつくる。 報告メモを基に、ペアで報告を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 第1時では、「聞いて分かりにくい言葉」がないか考えるよう促す。 第2時では、主に「話す速度や音量」に注目し、場に応じて効果的に報告するための知識を学習する。 |
| 第二時（本時） | <ul style="list-style-type: none"> 報告メモを基に、グループで報告し合う。 報告を聞いて、聞き手の人数や立場に応じて話す際の留意点について話し合う。 | |
| 第三時 | <ul style="list-style-type: none"> 全体で報告をするに当たり、必要に応じて報告メモを修正する。 大人数の前で話すときの留意点を確認する。 全体の前で報告を行い、話し方のよさや自分が話すときの留意点について話し合う。 | |

6 本時の学習（2/3時間）

- 前時を振り返り、本時の目標（聞き手にとって分かりやすい内容になっているかを確認、適切な速度や音量で話す力を付ける。）を確認する。
- 報告メモを基に、グループ内で報告したり聞いたりする。

<聞き手の役割>

 - ペアの相手（前時に報告を聞いている聞き手）は、話し手から最も離れた席に座り、適切な速度や音量で話しているかに注意して聞く。
 - ペアの相手以外の聞き手は、内容の分かりやすさに注意して聞く。
 - 発表について良かった点、アドバイス、感想などを付箋に記入し、話し手に渡す。
- 評価カードを基に、聞き手の人数や立場に応じて話をする際の留意点を話し合う。
 - ペアのときとグループのときの報告の違いについて、気付いたことを発表する。
 - 学級全体に対して報告するとき、どのようなことに注意するか考える。
- 学習を振り返る。
 - 「本時の学習からどんなことを学んだか」、「次の時間（全体での報告）に、注意したり工夫したりすることはどんな点か」という視点で振り返る。

ポイント1 実際の生活場面を題材に言語活動を設定する

- インタビューや質問などを通して情報を集める際には、自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように、主体的に語句を選んで話す必要があります。
- 本展開例では、「第1学年の生徒が部活動の『体験入部』の報告会をする」という実生活に即した言語活動を設定し、相手・目的意識を明確にしています。

ポイント2 状況に応じて話す意識と、聞き手の反応を見ながら話す習慣を身に付けるための学習活動を工夫する

- 本展開例では、状況を変えて報告するという言語活動（ペア、少人数グループ、全体）を設定しています。
- 人数や場の大きさによって、話す音量が違ったり、また、聞き手の立場によって、自分が分かっている言葉が通じるとは限らないという経験させ、内容が伝わっているかを確認しながら分かりやすく話す意識を高めています。

【状況を変えた報告についてまとめるワークシート例】

ポイント3 自分の学習を俯瞰して振り返る活動を位置付ける

- 報告会后に、どのような学習を通して、どのような力が身に付いたのかを振り返り、学習の成果と課題を自覚できるようにします。

【発問例】

今回の学習では、ペアや少人数のグループ、学級全体の3つの場面で報告をしてみました。聞き手の人数や場の大きさ、聞き手の経験の差によって、どのようなことに気を付けて話さなければならぬか、振り返りましょう。

